

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

向丘中学校区	校番22	福山市立高島小学校
最終更新日	2017年(平成29年)10月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型「スキル&倫理」 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	表現力, 課題発見・解決力, 情報活用能力, 主体性, 協調性・柔軟性, 自己理解, 郷土愛
<ul style="list-style-type: none"> 協働学習等の組織的な授業実践により, 学力が定着してきている。 家庭学習の定着に課題が残る。 教職員研修や地域とのかかわりは概ね良好である。 校区として小中共通の指標を設定し, 高い目標値をめざして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かり易く表現したり, 他者の考えを受け入れて思考を深めたりすることが苦手な児童生徒がいる。 意欲を持続させ, 粘り強く取り組む事が苦手な児童生徒がいる。 自己肯定感や自己有用感が低い児童生徒がいる。 	中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 人とのかかわり合いを大切に, 学ぶ意欲を持ち, 自分の生き方を主体的に考える子ども ○校区の学力課題を分析し, 自ら考え学ぶ授業づくりを推進する。 ○生活態度, 規範意識について共通的・系統的な取組を推進する。 ○特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを推進する。

III 自校

ミッション 地域に誇りを持ち, 確かな学力を基盤に意欲と目標をもって自己実現できる児童の育成	育成する力 21世紀型「スキル&倫理」	「課題発見・解決力」	「主体性」	「自己理解」
学校教育目標 豊かな心とたくましい実践力を育てる	めざす子ども像	1年 2年 自分の思いや願いの実現に向けて動き出している。	自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと行っている。	自分が好きなことやいやなことをいうことができる。
現状 <児童生徒> 組織的な教職員の取組により, 学習中や学習以外の時間も児童が落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。学校が楽しいと感じている児童の割合が向上している。その反面, 児童相互, 異学年間の関わりが薄く, 自己肯定感や自己有用感を持っていない児童もいる。行事などでは, 目標を持ち意欲的に取り組む児童が多い。 <授業> 理科, 図画工作科を中心に, 校内研修等で意欲の向上, 思考力, 判断力の育成, 協働の学び合いを意識した授業づくりを進めてきた。今年度中学校区の重点となっている資質・能力の育成を目指し, 日々の授業の中で, 更なる授業改善と具体的な取組を工夫する必要がある。	3年 4年	自分の見方や考え方を広げながら, 課題を設定し解決策を考えている。	自分でやると決めたことは, 粘り強くやり遂げている。	自分の考えや行動について自己評価している。
	5年 6年	物事を多面的に見たり考えたりして, 課題を設定し追及している。	より高い目標を立て, 希望と勇気を持ってくじけないで努力している。	自分の長所や短所を理解し, 自分の生き方を考えている。
	教科等 理科, 図画工作科	研究 主題・内容等	基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力, 表現力の育成 ー自ら考え学び合う授業と思考の「すべ」を獲得する授業づくりー ・児童の意欲向上と課題意識 ・資質・能力の育成と思考の「すべ」の活用 ・協働的な学び合い ・ふり返り	
	めざす授業の姿	・単元構成や導入を意識し, 意欲の高まりと明確な課題意識により, 主体的な学びを喚起・継続する授業 ・思考の「すべ」を意識し, 資質・能力を育成する授業 ・協働的な学び合いがある授業 ・ふり返りにより自己の成長や課題, 思考の「すべ」の獲得を自覚するふり返りのある授業		

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価 (10月1日)			最終評価 (2月末)					
							□指標にかかる取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	□指標にかかる取組状況 ○短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	基礎学力の定着と探求する楽しさ、わかる喜びを知る授業づくりを推進 【課題発見・解決力、主体性、自己理解の育成】	★	継続	①児童に基礎的・基本的な知識技能を習得させる。 (標準学力テストにより評価) *全項目全国平均以上 *昨年度の全学年平均点76.6を80.0にする。(＋3.4ポイント)	・ドリルタイムで計算の学習に取り組む。 ・個別の指導の充実を図る。	・基礎・基本的な知識・技能を定着させる問題を行い、学期末まとめテスト 85%以上の定着を図る。 ・単元テスト(国算理)で全国平均以上を目指す。	□全学年を通しての平均通過率は86.7%であった。しかし、学年によっては85%未満の学年も見られた。苦手単元などの分析し、取り組んでいく必要がある。 □国語、算数、理科の平均点はどの学年もおおむね全国平均以上となっており、個別指導の充実を図った成果が表れた。しかし、4年生の算数のみ全国平均を下回っており、課題が見られた。	3	3	・今後は、学年ごとに弱点単元の分析をして、プリント等を活用しながら、繰り返し演習を行い、さらなる基礎的・基本的な力を身に付けさせていきたい。 ・児童につける資質能力を意識した授業改善を充実させ、個のつまづきに合った個別指導を継続することで、基礎基本の確実な定着を図る。					

	<p>★ 新規</p>	<p>②カリキュラム・マップにおける重点単元を中心した授業づくりにより、重点とする資質・能力の育成を図る。 (標準学力テストにより評価) *全項目全国平均以上 *昨年度の全学年平均点 <u>60.5</u> を <u>65.0</u> にする。(+4.5 ポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 単元・単位時間の導入や課題の自覚を促す工夫を行う。 • 思考のすべを活用、ふり返りを意識した授業づくりを進める。 • 授業において、自分の考えをまとめ、ペア学習・グループ学習を行い、自分の考えを表現させる。 • 自分の考えをわかりやすく表現する力をつける問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入の工夫や思考のすべの活用について月1回進捗状況を交流する。 • 話し合い活動により自分の考えを深めたり広げたりすることができている児童85%以上にする。 • 1日1回はペア学習・グループ学習を取り入れた授業を行い、順序や理由、定義等を意識した説明を意図的に仕組む。 • 自分の考えをわかりやすく表現する問題の定着率を70%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入の工夫や思考のすべの活用について、カリキュラムマップをもとに月1回進捗状況を交流することができた。 □2学期のふり返りアンケートでは、学校全体で82.9%の児童が「自分の考えをわかりやすく説明することができる。」と答えた。 • 全学年において1日1回以上ペア学習・グループ学習を取り入れた授業を行い、順序や理由、定義等を意識した説明する場面を意図的に仕組むことで、説明しようとする力が付いてきている。 • 考え方を記述する問題の達成率は 	<p>3</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今後もカリキュラムマップをもとに月1回進捗状況を交流する。 • 教材研究を行い、授業の中に効果的な話し合い活動を1日に1回仕組む。児童に対して、話し方・聞き方の視点を与えて、交流させるようにしていく。 • 学習の進め方の手引きを参考に順序や考え方の過程を可視化することで、実際の学習の実践例を交流していく。 					
--	-------------	--	--	--	---	----------	----------	---	--	--	--	--	--

						62.3%だった。高学年に課題がみられる。									
3	自分のよさを自覚し地域に愛着を持つ児童を育成する。 【地域に対する誇り、自己肯定感と自己有用感の育成】	★	見直し	③地域に愛着を持つ児童を育成する。 (児童アンケートにより評価) * <u>地域に愛着を持つ児童 90%</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティチャー(地域の方)を招いた学習を各学年2回以上実施する。 ・地域の方へのお礼の手紙を、全児童に3通以上書かせる。 ・地域体験学習を年2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月、1月実施の児童アンケートにより、地域に愛着をもつ児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の児童アンケートで、地域に愛着を持つ児童が83%であった。地域の方との体験学習を計画的に行ったが、児童の意識を高める指導が不十分な学年もあった。 ・地域のゲストティチャー、体験学習、お礼の手紙とも、計画通り実施した。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の体験学習や地域の方をゲストティチャーとした学習を進めると共に、低学年には、生活科や体験学習を通して、具体的に地域のよさを伝えたり、地域の行事を紹介したりする。 					
				④自己肯定感と自己有用感を持つ児童を育成する。 (児童アンケートにより評価) * <u>自己肯定感・自己有用感のある児童 90%以上</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動を年5回全学年が取り組み、自己有用感を高める。 ・生活の3つの目標を全校で取り組み、指導と肯定的評価を行う。 ・縦割り班活動を年5回実施する。 ・幼小連携や低・中・高学年間交流を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月、1月実施の児童アンケートにより、自己肯定感・自己有用感のある児童を各85%以上にする。 ・「人が困っているときは進んで助ける」児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月になかよし班で協力して清掃活動に取り組み、すべての児童が自己有用感・自己肯定感を持つことができた。 ・困っている人を進んで助けた児童は71.9%であった。引き続き、人との交わりを意識させていく声かけが必要である。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班での清掃活動や幼稚園との連携等、互いの頑張りを認め合い、振り返りを通して自己有用感や自己肯定感を高めていく。 					

3	<p>体力の向上と生活リズムの定着 【自ら体力づくりを行い健康に留意する児童】</p>	見直し	<p>⑤児童に自己の体力への関心を高め、体力を向上させる。 (5月・10月新体力テストにより評価) *県平均以上の項目75%以上</p> <p>⑥児童に望ましい生活リズムを定着させる。 (実施結果と生活がんばりカードにより評価) *児童の定着 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 体育の授業で課題に繋がる運動(走、投の運動)を位置づけ継続して取り組む。 • 走の運動を取り入れた高島っ子タイムを実施する。 • 月に1度のNoメデイアデーを実施する。 • 年5回、生活がんばり週間を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題の運動(50m走、シャトルラン、ソフトボール投げ)それぞれが、18項目(6学年男女)のうち10項目以上県平均以上にする。 • 平均達成率を90%以上にする。 • 平均達成率：早寝・早起き・朝ごはん共に90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 県平均以上の項目は52.7%で課題が見られる。走・跳の運動に関しても県平均以上の項目が41.6%であり課題が見られる。 • 平均達成率97.2%と目標を達成することができた。 • 平均達成率：早寝86%、早起き83%と課題が見られる。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き高島っ子タイムで走の力を鍛える運動を取り入れ、具体的な目標を示して、達成感を味わえるようにする。 • 呼びかけを継続し、達成率を維持していく。 • Noメデイアデーや生活がんばりカードの結果を保健だよりで発信するなど、呼びかけや家庭と連携した取組を継続していく。 					
3	<p>教職員の姿と積極的な情報発信により、地域・家庭に信頼される学校</p>	見直し	<p>⑦学校・教職員の取組や情報発信により、保護者地域が学校・教職員の取組を肯定的にとらえている。 (アンケートにより評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学力向上の取組の徹底、児童の活動への丁寧な評価、保護者との積極的な連携など、教職員の意欲的な取組を全校で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 6月、9月、1月実施の保護者アンケートにより、学校・教職員の取組に対する肯定的評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 6月の保護者アンケートにおいて、肯定的評価が96.5%、9月の保護者アンケートにおいて、肯定的評価が96.4%だった。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き、通信やホームページ等で、計画的に情報発信を行い、児童の様子を 					

			<p>*肯定的評価 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区・学校の取組を積極的に情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信等を活用し、小中一貫教育の取組を年5回以上保護者、地域に発信する。 ・月1回以上、通信等(学校、学年、保健)を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・向丘中学校区だより「くまがみね」を1回発行した。 ・各通信等(学校、学年、保健)とも、月1回以上発行できている。 			<p>伝え、学校の取組への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本定着状況調査や全国学力テストの結果や、学力向上に向けた改善を学校通信やホームページで示し、教職員の意欲へとつなげる。 					
--	--	--	-------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。